

氏名 北山 貴裕
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 6957 号
学位授与の日付 2024年3月25日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Regression of Necrotic Lesions after Methotrexate Withdrawal in Patients with Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorders: A Retrospective CT Study
(メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の患者におけるメトトレキサート休薬後の壊死病変の退縮：CTの後方視的研究)

論文審査委員 教授 尾崎敏文 教授 和田 淳 准教授 松岡賢市

学位論文内容の要旨

本研究ではメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患 (MTX-LPD) と病理学的に診断された患者において、CT で壊死のある病変が壊死のない病変よりも、メトトレキサート (MTX) 休薬後により退縮するかどうかを後方視的に検討した。

24 人の患者から基準を満たした計 89 個の病変が解析された。病変内の壊死の有無は、MTX-LPD が疑われた際のベースライン CT で評価され、ベースライン CT と MTX 休薬後初回のフォローアップ CT との間で病変サイズの縮小率が計算された。病変の壊死とサイズ変化との相関は、粗モデルと調整済みモデルで線形回帰分析によって推定された。壊死はリンパ節病変 (59 病変中 9 病変、15%) よりも節外病変 (30 病変中 27 病変、90%) で有意に多かった ($p < 0.001$)。粗モデルでは、壊死病変は非壊死病変よりも 58.5% 有意に退縮した ($p < 0.001$)。加えて、ベースライン CT で壊死病変の長径は、非壊死病変の長径よりも有意に大きかった ($p < 0.001$)。調整済みモデルでは、壊死病変は非壊死病変よりも 49.3% 有意に退縮した ($p = 0.017$)。

CT で認められる壊死は、MTX 休薬後の病変の退縮を予測する独立した因子である。

論文審査結果の要旨

本研究では、メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患 (MTX-LPD) と病理学的に診断された患者において、CT で壊死のある病変が壊死のない病変よりも、メトトレキサート (MTX) 休薬後により退縮するかどうかを後方視的に検討している。

24 人の患者から計 89 個の病変が解析された。病変内の壊死の有無は、MTX-LPD が疑われた際のベースライン CT で評価され、ベースライン CT と MTX 休薬後初回のフォローアップ CT との間で病変サイズの縮小率を計算している。病変の壊死とサイズ変化との相関は、粗モデルと調整済みモデルで線形回帰分析によって推定された。壊死はリンパ節病変よりも節外病変で有意に多かった。粗モデルでは、壊死病変は非壊死病変よりも 58.5% 有意に退縮した。加えて、ベースライン CT で壊死病変の長径は、非壊死病変の長径よりも有意に大きかった。調整済みモデルでは、壊死病変は非壊死病変よりも 49.3% 有意に退縮した。

本研究により、MTX-LPD において CT で認められる壊死は、MTX 休薬後の病変の退縮を予測する独立した因子であることが判明した。発表後の審査員の質問にも適確に返答できた。

以上のように、本研究は重要な知見を得た価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。